

留学生におくる令和のこころ（5）

皇位継承の儀式に寄せて

令和2年11月

JaLSA 日本文化研究員

立皇嗣の礼

11月8日に「立皇嗣の礼」の儀式が皇居内で執り行われました。第126代今上天皇¹の徳仁陛下が、秋篠宮文仁親王を皇位継承順位第一位の皇嗣とすることを決め、日本国の内外と日本の神々に宣言し、披露するという儀式です。通常は、現在の天皇を継ぐ継承第一位は天皇陛下の息子であることが多いので「立太子の礼」といいますが、秋篠宮殿下は今上天皇陛下の弟（皇太弟）にあたるので、「立皇嗣の礼」といわれています。

この儀式は、「立皇嗣宣明の儀」といって、まず天皇陛下が秋篠宮殿下に対して「本日本ここに、立皇嗣宣明の儀を行い、皇室典範の定めるところにより文仁親王が皇嗣であることを、広く内外に宣明します」と宣言します。これに対して、皇嗣となった秋篠宮殿下が「立皇嗣宣明の儀をあげていただき、誠に畏れ多いこととございます。皇嗣としての責務に深く思いを致し、務めを果たしてまいりたく存じます」（お言葉はいずれも宮内庁ホームページ²より）と、お言葉を返し、そのあと列席者を代表して、内閣総理大臣が寿詞³を述べるという手続きを行います。

この時に、天皇陛下が、皇太子の時に上皇陛下より親授⁴された壺切御剣を、皇嗣殿下にお渡しになるという「皇嗣に壺切御剣親授」の儀が行われています。今回は、この壺切御剣がテレビカメラの前に公開されました。この剣は、平安時代に宇多天皇⁵が皇太子である敦仁親王（後の醍醐天皇）に御授されたと伝わるもので、その後、皇嗣の証として現代に伝わっているものです。

その次に「朝見の儀」があります。この儀式は、天皇陛下や皇嗣殿下が、即位後初めて三権の長をはじめとした主だった国内の人々の前にお出ましになる儀式になります。昨年は天皇陛下が即位された時に、即位後初めての朝見の儀を行いましたが、今回は皇嗣のための儀式ということになります。ここでは、まず皇嗣殿下が「本日は、立皇嗣宣明の儀をあげていただき、誠に畏れ入りました。皇嗣としての務めを果たすべく、これからも、力を尽くしてまいりたく存じます。ここに、謹んで御礼申し上げます」と謝辞を述べられ、その後天皇陛下から「本日本、立皇嗣宣明の儀が行われたことを、誠に喜ば

しく思います。これまでに培ってきたものを十分にいかし、国民の期待に応え、皇嗣としての務めを立派に果たしていかれるよう願っています」、皇后陛下から「この度の御儀が滞りなく行われましたことを、喜ばしく思います。どうぞ、これからもお健やかにお務めを果たされますように」(お言葉はいずれも宮内庁ホームページより)とのお言葉が述べられました。

その後、天皇皇后両陛下が皇嗣同妃両殿下に御盃をお授けになり、そして天皇皇后両陛下が御箸をお立て、それに倣って皇嗣殿下と妃殿下が御箸をお立てになりました。そして御祿をお授けになりました。

昨年までであれば、このあと宮中晩餐会があり、皇族、旧皇族、三権の長や大臣、国会議員(常任委員会の委員長)、また諸外国の大使などが出席して盛大にお祝いをするようになりますが、今年は新型コロナウイルスの影響でこれらの宴会や人が集まって行うパレードなどはすべて中止されると発表がありました。常々「国民とともにある」とおっしゃっており、国民が自粛していることから、これらのことは避けられているということです。

皇太子・皇嗣

日本で一番初めに「皇太子」という言葉が記録に出てくるのは、720年に完成したとされる『日本書紀』の第三巻「神武天皇紀」になります。それによれば、神武天皇即位後42年で神渟名川耳尊を皇太子としたとあります。神武天皇崩御後、皇子手研耳命は神八井耳命と皇太子神渟名川耳尊の二人の弟を殺そうとしたが逆に討たれ、神渟名川耳尊が第二代綏靖天皇となっています。

実際に『日本書紀』は神話であるとされておりますが、少なくとも「日本書紀が書かれた時代」つまり天武天皇の時代⁶には皇太子という存在が天皇の位を継承する存在として認識されていたということになります。

このほかにも「皇太子」が活躍することが『日本書紀』には記載されています。推古天皇⁷の時に有名になるのは、聖徳太子です。推古天皇の即位とともに皇太子となったのが聖徳太子(厩戸皇子)であり、冠位十二階や十七条の憲法などを制定し、また日本国内における仏教の普及や遣隋使による文化的発展を行っています。しかし、推古天皇が在職中に薨去⁸してしまうので、聖徳太子は天皇になることはなかったのです。

また、645年に大化の改新を行ったのは、皇極天皇⁹の時の皇太子である中大兄皇子です。大化の改新は蘇我蝦夷・入鹿父子が専横¹⁰していたものを、中大兄皇子と中臣鎌足が

この二人を誅殺^{ちゆうさつ}し、皇極天皇を廃して孝徳天皇を即位させ、自らは皇太子という自由な立場で改革を行ったということになります。その後天智天皇として踐祚^{せんそ}し、大海人皇子^{おほあまの}を皇太弟、大友皇子^{おほとものおうじ}を太政大臣^{だじょうだいじん}に任命して、国内の政治を行ったのです。

このように、皇太子または皇太弟は古代より天皇を補佐して国政を行い、また皇統^{こうとう}を守るということを行っていることになります。逆に、天皇が皇嗣として即位しても、その後、太子の地位を廃されることが歴史的にはありました。神話の世界は別にして、皇太子が最初に太子を廃されたのは、第46代孝謙天皇の皇太子であった道祖王^{みちのすけのみこと}であるとされています。奈良の平城京の遷都をした聖武天皇には皇子がなく、孝謙天皇が即位し、聖武上皇の言葉を受けて道祖王を皇太子にしたのです。しかし、聖武上皇の喪^{むすび}に服している間に淫行^{いんこう}を行い、服喪^{ふくも}の礼を欠席してしまったり、宮中の秘密を、東宮^{とうぐう}を抜出して町中で言うなどしたり、皇太子としてあるまじき行為が多く、孝謙天皇は皇太子にふさわしくないと宣言して廢太子^{はいたいし}14をしてしまうのです。今も昔も、女性関係が甘かったり、スキャンダルを起こしたりするのは、あまり公のところでは好ましく思われませんし、また、高い地位につくことにふさわしくないとされるようです。

逆に、最後に廢太子されたのは、南朝の後龜山天皇^{ごかみやま}の皇太弟の惟成親王^{これなりしんのう}とされています。その当時、南北朝^{なんぽう}15に分かれていた天皇家が室町幕府三代將軍足利義満^{あしかがよしみつ}の講和条件によって和解したために、後龜山天皇の皇太子が北朝側になり、南朝の皇太子であった惟成親王が廢太子されています。南北朝という朝廷が二つに分かれていた時代に皇太子になってしまったことから、政治的に廢位されたということになりますから、ある意味で悲劇の皇太子であったとされています。惟成親王は、廢太子された後は室町幕府に従順な態度であったと伝わっています。

このように、飛鳥・奈良・平安時代といった天皇の権力が強く実際に国内の統治を行っていた時代は、「天皇としてふさわしくない」として廢太子されることが多くありました。廢太子されてしまった人は、朝廷の意向に逆らったり、皇太子としてふさわしくない行為をしたりしたのです。また、当時はふさわしくないということの中に「呪術でほかの皇子を呪った」など、現在ではあまり信じられないような理由で廢太子されることも少なくなかったとされています。一方、鎌倉時代（12世紀）以降武士が政治を行う時代になると、建武の新政^{けんむしんせい}16に伴い南北朝に分かれたことによって政治的に太子を退^{しりぞ}かなければならないことがあり、そのことから、太子を廢したのちも皇族として残っていることが少なくなかったのです。

なお、皇族の中では「皇太子」とは言いません。日本では、「地名」でその人を表すのが普通になっています。そのために「皇太子の住まい」である「東宮」という言葉が使

われ、通常は「東宮殿下」というような呼称こしろうを使うようです。一般の我々は「皇太子殿下」とお呼びしておりますが、皇族の中では異なる呼称を使っているというのなかなか興味深いところです。

皇統を守るということ

このようにして、日本では天皇だけではなく、皇統を守るということが古くからシステム化され、そしてその儀式がさまざまに行われています。またその伝統に従って、守りまもり刀がたなである壺切御剣の拝受など、色々な儀式が行われるようになっていきます。

日本は多神教で、多くの神々が日本の森羅万象しんらばんしやうを司つかさどり、神々として日本の人々に恩恵をもたらしているとされています。皇室は、太陽の神である天照大御神あまてらすおおみかみそして稲の神である瓊瓊杵尊にぎのみことの子孫であるとされており、暦こよみを司る神とされていたのです。そのために、大化の改新の後「大化」という年号を付けて以来、天皇がさまざまな気候や物事を見て、神々と話をし、そして暦をつくり、また年号を変えることによって時代を作ってきたのです。昔、日本は太陰暦を使っていたことから、数年に一度「閏月うるうづき」を入れて調整しなければならなかったのですが、その調整も天皇の役割でした。これは幕府を作った将軍であっても勝手に年号を変えたり、閏月を入れたりすることは許されておらず、天皇しかできなかつたとされています。

明治時代以降、一世一元号いっせいいちげんごう¹⁷が原則化され、また戦後は日本国憲法下によって皇室典範てんぽんという法律で皇室のことをさまざまに決めています。しかし、そのような制度ではなく、文化や物事のあり方、そして伝統を守るということは、ある意味で皇室や皇統を守るということによって体現されていると多くの日本人は「無意識のうちに思っている」ということになるのではないのでしょうか。皇室や王室のある国では、特に意識していなくてもその王族ということに関してプライドを持ち、そしてその在り方が自分たちの生活の象徴であるというように考えています。一つ一つの儀式を民間では行うことはないかもしれませんが、しかし、そのような感覚をもっていることが、民間の中では形を変えて伝統を作り、そして文化になってゆくのではないのでしょうか。

¹ 今上天皇……その時々における在位中の日本の天皇。

² <https://www.kunaicho.go.jp/favicon.ico>

³ 天皇の御代(みよ)が長く栄えるようにと祝う言葉

⁴ 天皇がみずから授けること

⁵ 第59代天皇(在位 887~897)

⁶ 第40代天皇(在位 673~686)

-
- ⁷ 第 33 代天皇、女帝（在位 592～628）
- ⁸ 皇族または三位(さんみ)以上の貴人が死去すること
- ⁹ 第 35 代天皇、女帝（在位 642～645）
- ¹⁰ 好き勝手に振る舞うこと
- ¹¹ 罪をとがめて殺すこと
- ¹² 天皇の位につくこと
- ¹³ 天皇の血筋
- ¹⁴ 王位継承者を辞めさせること
- ¹⁵ 日本の歴史区分の一つ。1336 年から 1392 年までの 57 年間を指す
- ¹⁶ 1333 年～1336 年の後醍醐天皇による政治
- ¹⁷ 天皇一代の元号を一つだけにすること